

## 茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：6月28日（金）16：12～16：22

場所：大阪

（茂木大臣）

今日14時半から約1時間半、ライトハイザー通商代表と日米貿易に関する協議を行ったところでございます。先週、今週と行われました農産品、工業品に関する実務者協議の結果を二人の間で確認するとともに、閣僚レベルで詰める必要がある論点、これも絞り込まれているので、そうした論点について確認を行い、率直な議論を行ったところであります。今日の二人の協議の結果を踏まえ、交渉を前に進めるために来月早々から、実務者レベル、さらには事務方のハイレベルも含め、事務方によります協議を精力的に行うことで日米一致をしたところであります。そして事務方によります協議の結果を受けて、ライトハイザー代表とは次回の協議をすることにしましたが、日程等については、改めて調整する予定であります。

（記者）

先ほど詰めるべき論点とおっしゃいましたが、具体的にどのようなことが挙げたのか。また、合意の目途、スケジュールをおっしゃっていましたが、もし出ていましたら教えてください。

（茂木大臣）

詰めるべき論点については、絞られてきている。このように思っておりますが、内容に関することは交渉の途中でありますので、コメントを控えたいと思っております。時期については、できる限り早期にということでは一致をいたしております。

（記者）

ライトハイザー代表との間で、来月早々にも実務者と事務方のハイレベルの協議を進めることで一致したということですが、こちらについては茂木大臣から提案されたのでしょうか。

（茂木大臣）

私の方からそういった話をしたのですが、それぞれの分野ごとに担当は違ってきますので、かなり事務レベルでやるものと事務方の中でも少人数で、ハイレベルでやるものがあり、課題は正確に言って若干の違いはありますので、いくつかのチームというか、いくつかのグループでやることになるわけでございます。

（記者）

次回の閣僚協議ですけれど、実務者協議の進展次第だと思いますけれど、閣僚レベルでやる論点、いくつかの部分については結論みたいなものを出すことも想定されてますでしょうか。

（茂木大臣）

まず、事務レベルの協議、どこまで進展するかということにかかってくるかと思うのですが、できるだけ落としどころを探るといふか、そういったことも含めて協議をしたいと思っております。

（記者）

実務者とハイレベルの事務レベルを精力的にやるということ、その事務方にも非常にマנדートが与えられるという考え方でよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

マンデートを与えられるというか、それぞれ詰められることは詰めていくと。私にしてもライトハイザー通商代表にしても細かいことまで全てをやらない方がよいわけですから、やはりどうしても課題として残ってしまう重要な点についてだけ議論ができるという形が望ましいと思っているわけで、精力的に事務方にまず詰めてもらう。そして、その結果、詰め切れなかったことについて、閣僚レベルで協議をする、こういう手順だということです。

(記者)

トランプ大統領が、日米同盟の在り方についてここ数日言及をしているかと思いますが、そういった安全保障の話題と貿易の話題がリンクしていくようなことはありうるのか、今後貿易交渉に何らかの影響はあるのでしょうか。

(茂木大臣)

今日の日米首脳会談におきましても、私とライトハイザー通商代表との議論におきましてもそういった話は出ておりません。

(記者)

今後影響を与えうるということにつきましてはどうでしょうか。

(茂木大臣)

今、お答えしたとおりです。

(記者)

トランプ大統領と安倍総理、午前に首脳会談しましたけれども、そこで貿易協議も話題に出ていると思います。加速させることで一致したという内容で出ているかと思いますが、ライトハイザー代表と茂木大臣との今日の会談に何か影響を与えることはあったのでしょうか。

(茂木大臣)

影響を与えるというかそれを踏まえて協議は行いました。日米首脳会談で、ライトハイザー代表と私で行っている貿易交渉について昨年9月の日米共同声明に沿って日米 win-win となるかたちでの早期の成果達成に向けて日米の信頼関係に基づきさらに加速させる、協議を加速させるということで両首脳一致をしたわけでありまして、それを踏まえて今日の午後閣僚間での協議を行っていただいたということです。

(記者)

加速させるために今日の議論の風景はいかがだったのでしょうか。今までより激しくなったりですとか、何か変わりはありましたか。

(茂木大臣)

激しくというかですね、率直な意見交換をしておりますし、何回やったかわかりませんが、相当な議論を重ねておりますので、お互いの考え方、立場、そしてどこにギャップがあるか、それも理解をした上でそれを詰めるような議論を行っているということです。

(記者)

これまでも何回も閣僚協議をされていると思いますけれども、合意に至るまであとどれくらい閣僚協議の回を重ねていかなければいけないと思いますか。

(茂木大臣)

神のみぞ知る。(Only God knows.)

(記者)

首脳会談も茂木大臣お出になったと思いますけれども、トランプ大統領は貿易収支のお話を切り出されたということですが、それは農産品の輸出なり自動車の現地生産を拡大してほしいとの文脈のお話だったのか、うかがってもよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

日米首脳会談の内容については私がレクする立場ではありませんけど、私の印象として貿易収支の問題についてトランプ大統領が今回の協議で強く主張されたという印象は持っておりません。

(記者)

今日の会合で物品及びデジタル貿易以外のそれを超える部分についての貿易投資に関する議論というのは。

(茂木大臣)

ありません。

(記者)

今後の議論についても見通しのようなものは話されていないでしょうか。

(茂木大臣)

範囲が決まっていますから、もう。そこの議論をしております。

(記者)

今回茂木大臣のほうから実務者協議ですとか事務レベルのご提案をされたということで、そのことで一致したということへの改めての受け止めと、実務者でできることがどういった効果があるのかというのを改めて頂けますでしょうか。

(茂木大臣)

交渉、議論は深まっているのは間違いない。そして、実務者協議も先週、今週と行われたわけで、そういった成果も踏まえて、議論も踏まえて今日の議論を行ったわけではありますが、同じようなプロセスといいますか、さらに細かく詰める点もありますから、そういったことは当然実務者でやっていく。これまでの経済連携協定でも、全部閣僚間で細かいことまでやるわけではありませんから、当然そういった作業も並行して進めていくということです。

(記者)

それは議論の加速に効果があるという認識でよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

効果があると言えば効果はあるでしょうね。

(記者)

今日の議論のなかで合意の時期についてのお話は出なかったでしょうか。

(茂木大臣)

出ておりません。

(記者)

今日の協議でテタテはやりましたか。

(茂木大臣)

やってません。立ち話はちょっとしましたけれども。二人で立ち話はやりましたけれど、テタテでじっくりというかたちでやってません。

(記者)

道内関心が高いものですから、乳製品などTPPのワイド枠を別途米国に認めればTPP以上の市場開放となりますが、今回の協議ではそういった内容は議論にのぼりましたでしょうか。

(茂木大臣)

交渉の内容については、交渉は今進行中でありますからコメントを控えさせていただきます。

(記者)

農産品と工業品はそれぞれ話し合ったということによろしいでしょうか。

(茂木大臣)

そうです。

(記者)

何割くらいとか、どちらが主に関心があったなどありますか。

(茂木大臣)

何割とはあれですが、両方とも時間をかけて話をしました。

(以上)